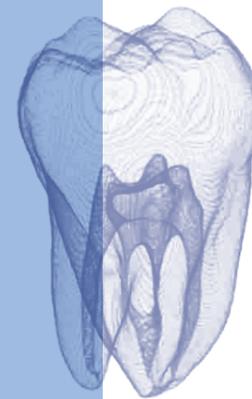


CBCCT



CBCCT

オンデマンドウェビナー

Practical Tips for diagnosis using CBCCT

web seminar ʻʻ)

www.yoshida-dental.co.jp

date

information

2022
11/28月~12/12月

期間中は見放題!!
タイムテーブルなど
詳細は特設ページに随時アップ!

お申し込みは裏面より



さまざまな分野の日常臨床において、最大限にCBCCTを活用されている先生方の治療方法や活用法を一挙にweb配信! CBCCTを導入したがイマイチ活用しきれていないとお悩みの先生や、導入をご検討中の先生ご必見の内容となっております。さらに今回は基調講演として、寺内吉継先生よりCBCCTのエンド3D画像診断への応用の軌跡についてお話させていただきます。貴重な機会となっておりますので是非ともご覧ください。

特設ページに予告動画随時掲載予定!



お申込み [ヨシダのホームページよりお申込みください。](http://www.yoshida-dental.co.jp)

ヨシダ <https://www.yoshida-dental.co.jp>

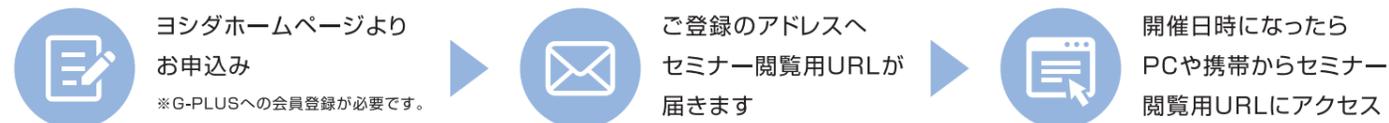
期間中は見放題!!
参加費無料

セミナー期間
2022 11/28月 ~ 12/12月

スマホからは
QRで
簡単アクセス



お申込みから受講までの流れ



※受講の際はスピーカーではなく、ヘッドセットやイヤホンのご使用をお勧めします。
※通信不具合によりご参加・ご視聴いただけない場合の保証はできかねますので、予めご了承ください。

ご提供いただいた個人情報につきましては、弊社事業に関する情報、製品に関する情報の提供等、弊社インターネットホームページに掲載した個人情報保護方針「利用目的」の範囲内で利用させていただきます。

セミナー内容についてのお問い合わせ

株式会社 **ヨシダ**
画像部 (担当: 小野寺・鈴木)
TEL.03-3845-2925 (平日 10:00-17:30)

G-PLUS会員登録や
セミナー受講方法の
お問い合わせ

g-plus@yoshida-dental.co.jp
※メールでの受付・回答のみとさせていただきます。
※お問合せは順次対応させていただきますが、状況により回答までお時間をいただく場合がございます。予めご了承ください。

参加費
無料

CBCT オンデマンドウェビナー

web seminar 1)

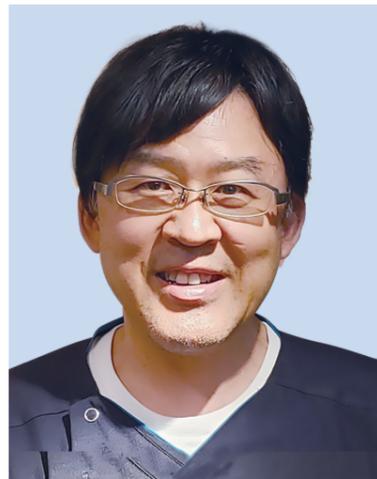
基調講演

2004年から エンド診断にCBCTを応用してみた

～ 18年の軌跡と世界からの反響 ～

寺内 吉継先生

神奈川県大和市開業
 医療法人社団インテリデント理事長
 東京医科歯科大学非常勤講師
 日本顕微鏡歯科学会指導医
 AAE 認定講師
 Toronto 大学 Endodontic Study Program 講師
 ポルトガル Egas Moniz 大学非常勤講師
 イタリア DEM Education 講師
 デンタルアーツアカデミー専任講師・通訳
 ボストン大学歯学部歯内療法科非常勤臨床准教授
 (Adjunct Clinical Assistant Professor of Endodontics at Boston University Henry M. Goldman School of Dental Medicine)
 パチェシア大学歯学部歯内療法科非常勤教授
 (Adjunct professor at Department of Endodontics Faculty of Dentistry Bahçeşehir University Istanbul/TURKEY)



米国式根管治療の術式に則り歯内療法専門医として臨床を始めた私は、ちょうど実用化され臨床応用が開始されて間もなかった歯科用の CBCT (Cone Beam Computed Tomography) に着目しました。当時はまだセンサーもフラットパネルディテクタ (Flat Panel Detector) ではなく大型の真空管ともいえるイメージインテンシファイア (Image Intensifier) であり、装置も巨大で重量が 1t もあるようなたいへん高額な診断機器でした。そんな大型の機械で小さな根管を診るという発想は世界でも先駆けたものでした。それから 18 年。今やエンドの診断に CBCT 画像は欠かせないものになっております。各国での講演においても私の日本産 CBCT による鮮鋭な画像は高い評価を受け続けております。今回の講演では歯科用 CBCT 黎明期から現在に至るエンド 3D 画像診断への応用の軌跡を、世界各国での講演会で直に受け取ったフィードバックや現地でのエピソードを交えながらお話してみたいと思います。

(以下あいうえお順)

講演 1

MDCTからCBCT、そして最新の複合型 CTへ ～ CT 臨床応用の変遷～

佐藤 孝弘先生

新潟市 オリーブデンタルハウス開業
 ITI フェロー、セクションジャパン認定インプラントスペシャリスト
 日本補綴歯科学会専門医
 OJ 正会員、理事、フェロシップメンバー
 日本顎咬合学会指導医
 日本臨床歯科学会新潟支部理事

大学卒業後、1997 年より附属病院インプラント外来にて 8 年間臨床をしておりました。当時はまだ日本国内では歯科用 CBCT 発売前でしたが、病院の医科用 MDCT(Multi Detector-row CT) をインプラント術前診断に使用することができました。もちろん 3D 画像は望むべくもなくフィルムによる読影診断でしたが、パノラマやデンタルでは診ることが叶わない頬舌断面画像等は術前診断において絶大な威力を発揮しました。開業がちょうど歯科用 CBCT 発売時期と重なり早々に Finecube を導入して 16 年間使用し続けておりましたが、この度セファロ付の複合型 CT へと入替をいたしました。パノラマ・CT に加え、矯正診断以外でも重要性が高まってきているセファロ画像も 1 台の装置で撮影可能となり診断精度の向上を日々実感しています。今回の講演では私の CT 遍歴を振り返りながら、現在の複合型 CT の特徴および今後の展望についてご報告させていただきます。



講演 2

歯内療法における CBCTの三次元的な診査・診断への応用

下山 智義先生

しもやま歯科医院 理事長
 Penn Endo Study Club in Japan インストラクター
 American Association of Endodontists (AAE)
 日本歯内療法学会会員 (JEA)
 日本臨床歯周病学会会員

歯内療法的問題に対する診断やマネージメントにおいて CBCT の使用は、近年増加している。マイクロスコプや Ni-Ti ローターファイル、MTA などのバイオセラミックに加えて歯内療法領域において CBCT は必要不可欠な診査機器となってきた。とは言うものの、歯内療法領域における X 線画像診査の第一選択はデンタル X 線写真である事は、被曝量の観点からも現時点で変わりはないと考えられる。しかし、CBCT は目的とする歯や歯周組織の解剖学的構造を、三次元的に観察することができるという非常に大きな利点がある。今回、CBCT を歯内療法領域で使用の際にどのような場合に用いると有効であるか、実際の症例を通して供覧いただけたら幸いです。



矯正治療を行う上での大切なポイント ～歯科用 CT、MRI などの活用法～

山地 正樹先生

ヤマチ歯科・矯正歯科クリニック 理事長
 日本矯正歯科学会 認定医 臨床指導医
 AAO (アメリカ矯正学会) 会員
 咬合機能研究会 会長

矯正治療を行う上で、診断は大切なポイントである。そのためには、顔面写真、口腔内写真、石膏模型、セファログラム、パノラマ X 線写真などを採得し、さらに歯科用 CT などを撮影し、歯を顎顔面構造の中で、良いバランスを考えて配列することが大切である。その場合、セファログラムより、歯の三次元的移動の予測が可能な歯科用 CT を用いることで、矯正治療がやりやすく歯を正確に移動できる。さらに顎関節症の場合、下顎頭の関節高における位置や形態を三次元的に確認できる。また、MRI や下顎運動測定器で測定することにより、関節円板の位置を診査し、機能を見ることにより、正確で審美的な矯正治療を行うことが可能である。

講演 3



講演 4

デジタル時代に、チームで取り組む インタラクティブな歯科補綴治療

吉木 雄一朗先生

愛知県名古屋市長開業
 日本顎咬合学会噛み合わせ認定医
 日本臨床歯科学会名古屋支部理事

近年のデジタルデンティストリーの発展により、チェアサイド、ラボサイドともに大きな変革もたらされた。デジタルによる恩恵と、従来のアナログの良のバランスを考慮して、医院のワークフローを変更し対応していく必要がある。特に補綴修復の分野においては、患者の希望や反応を確認しながら、チェアサイドとラボサイドが連携していく必要がある。今回、パートナーであるテクニシャンとどのように連携し、患者を中心とした歯科補綴修復治療を行っているかを、症例を基にお話しさせて頂く。

